

学校の先生たち  
おすすめ

# うちどく ブックリスト

中学生版

「うちどく(家読)」とは、家族で読書を通して家族のコミュニケーションを図ろうという試みです。家族みんなで本を読んで、その本について話したら、それが「うちどく」です。読んだ本について家族で話すことで、子どもも大人も一緒に成長し、心の豊かさをはぐくむことができます。

難しいルールや決まったやり方はありません。おうちの生活スタイルにあった「わがやのうちどくルール」をつくって、自由に読書をしてください。

「うちどく」で家族のきずなを深めましょう!

<p><b>新参者</b> 東野圭吾 著 講談社 2009年 ¥1600</p> <p>江戸の匂いも残る日本橋の一角で発見された、ひとり暮らしの40代女性の絞殺死体。彼女に何が起きていたのか。着任したばかりの刑事・加賀恭一郎は、謎を解き明かすため、未知の土地を歩き回る。『小説現代』掲載を書籍化。</p>	<p><b>永遠の0</b> 百田尚樹 著 太田出版 2006年 ¥1600</p> <p>生への執着を臆面もなく口にし、仲間からさげすまれたゼロ戦パイロット。「生きて帰る」という妻との約束にこだわり続けた男は、なぜ特攻を志願したのか? はるかなる時を超えて結実した、苛酷にして清冽なる愛の物語。</p>	<p><b>語りつぐ者</b> パトリシア・ライリー・ギフ 作 もりうちすみこ 訳 さ・え・ら書房 2013年 ¥1600</p> <p>父親の仕事の都合で、叔母にあずけられたエリザベス。気詰まりな生活の中で、エリザベスは自分そっくりの少女の肖像画にひかれていく。絵の少女は、200年以上も前のエリザベスの祖先ズィーだった…。</p>
		<p>現在購入できる版の出版年を掲載しています。              価格は2015年12月末現在の本体価格です。</p> <p>掲載については出版社の許諾を得ています。              無断で転載することを禁じます。</p> <p>○印がついた本の内容紹介は、TRCマークを使用しています。</p>
<p><b>トラベリング・パンツ</b> アン・ブラッシャー 作 大島双恵 訳 理論社 2002年 ¥1600</p> <p>仲よし4人組の少女たちが16歳を目前に初めて別々に過ごす夏休み。一本のジーンズが4人の間を「旅して」まわる。誰がはいてもぴったりフィットする不思議なジーンズをめぐる、温かくも哀しい4つのラブストーリー。</p>	<p><b>クラバート</b> オトフリート・プロイスラー 作 ヘルベルト・ホルツィング 絵 中村浩三 訳 偕成社 1980年 ¥1600</p> <p>浮浪生活をしていたクラバートは、ある時から奇妙な夢を見るようになる。それは、「シュヴァルツコルムの水車場に来い。」という11羽のカラスの夢。やがてクラバートは12羽目のカラスとなるが…?</p>	<p><b>夢を持ってはいけません</b> 一目標達成力を身につける 佐々木宏 著 国土社 2009年 ¥1200</p> <p>「夢」に「日付」を入れ、「目標」にした瞬間、君の生活は一変する。「日付」は、君を真剣勝負にいざなってくれるのだ。学習コーチングのプロが指南する「生き方ナビゲーション」。</p>

**2016年2月発行**  
**大洲市小中学校**  
**大洲市立図書館**

<p><b>夢を持ってはいけません</b> 一目標達成力を身につける 佐々木宏 著 国土社 2009年 ¥1200</p> <p>「夢」に「日付」を入れ、「目標」にした瞬間、君の生活は一変する。「日付」は、君を真剣勝負にいざなってくれるのだ。学習コーチングのプロが指南する「生き方ナビゲーション」。</p>	<p><b>戦争を取材する</b> 子どもたちは何を体験したのか 山本美香 著 講談社 2011年 ¥1200</p> <p>地雷で足を失ったアテム、ゲリラに誘拐され兵士にされたターティ、目の前で友達を殺されたアブドゥヌール。世界の紛争地域を取材するジャーナリストが、戦争の中で懸命に生きる子どもたちの姿を紹介し、平和の大切さを訴える。</p>	<p><b>井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法</b> 井上ひさし 著 いわさきちひろ 絵 講談社 2006年 ¥952</p> <p>平和憲法の精神を表している「前文」と「第9条」を子どもにも読める言葉に翻訳し、イラストを添えて絵本として収録。また、日本国憲のもととなる考え方や、重要な条文の内容などについて、わかりやすく解説する。</p>

					
<p><b>わかりやすく〈伝える〉技術</b> 池上彰 著 講談社（講談社現代新書） 2009年 ￥740</p> <p>相手を惹きつける説明とは？ 図解をどう生かす？ 「日本語力」を磨くには？ プレゼン自己トレ法や情報収集術・整理法まで、テレビの現場で培ったノウハウをすべて公開。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>「あの日」のこと</b> 東日本大震災 2011・3・11 高橋邦典 写真・文 ポプラ社 2011年 ￥1600</p> <p>世界の戦場を目の当たりにしてきたカメラマンが見たものは、すさまじい破壊のあとと、はてしなくひろがる悲しみの大地だった。東日本大震災で被災した人々の写真と「言葉」の記録。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>キミが勉強する理由</b> 藤原和博 著 朝日新聞出版 2008年 ￥1100</p> <p>だれも教えてくれなかった「なぜ勉強しないといけないか」と学校じゃ教えてくれない「遊び」と「勉強」の深〜いカンケイと、勉強がもっと「ラク」に「楽しく」なる方法を紹介。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>鬼の橋</b> 伊藤遊 作 太田大八 画 福音館書店 1998年 ￥1400</p> <p>昼間は京の都のえらいお役人にして有名な漢詩人、夜は井戸からあの世へ通い、地獄でえんま大王の右うでとして働いたという不思議な伝説を持つ、平安初期に実在した人物・小野篁。その少年時代を描いたファンタジー。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>ステップ</b> 重松清 著 中央公論新社（中公文庫） 2012年 ￥629</p> <p>結婚3年目、30歳という若さで妻の朋子が逝った。あまりにもあっけない別れだった。「僕」は、男手ひとつで娘の美紀を育てようと決める…。初登園から小学校卒業までの足取りを綴る、「のこされた人たち」の成長物語。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>あと少し、もう少し</b> 瀬尾まいこ 著 新潮社 2012年 ￥1500</p> <p>あの手に<sup>たすき</sup>襷をつないで、力を振りしぼって、ゴールまであと少し。寄せ集めメンバーと頼りない先生の元で、最後の駅伝にのぞむ中学生たちの夏を描く青春小説。</p> <p style="text-align: right;">○</p>
					
<p><b>星の王子さまの天文ノート</b> 縣秀彦 監修 河出書房新社 2013年 ￥1500</p> <p>月の満ち欠け、太陽系のながめ、流れ星や日食、星雲と星団、春夏秋冬の星座…。サン＝テグジュペリの名著「星の王子さま」を通して知る星々の世界。好きな星がきっと1つ見つかる、初心者のためのやさしい天文入門書。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>NASAより宇宙に近い町工場</b> 植松努 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン（ディスカヴァー携書） 2015年 ￥1000</p> <p>すべて自腹で宇宙ロケット開発に取り組む、北海道の町工場からの提言。宇宙ロケット開発の夢を追い続ける著者が「夢をかなえるには?」「仕事を楽しむには?」「明るい未来をつくるには?」を熱く語る。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>サラダ記念日</b> 俵万智 著 河出書房新社 1987年 ￥1000</p> <p>『『寒いね』と話しかければ『寒いね』と答える人のいるあたたかさ』、『また電話しろよ』『待ってる』いつもいつも命令形で愛を言う君』など、心温まる短歌を集めたベストセラー。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>人間失格</b> 太宰治 著 新潮社（新潮文庫） 2006年 ￥286</p> <p>「走れメロス」の著者の自伝であり、遺書でもある作品。「恥の多い生涯を送ってきました。」から始まる、女性、薬物におぼれていく1人の男の生涯がありありと描かれている。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>島はぼくらと</b> 辻村深月 著 講談社 2013年 ￥1500</p> <p>瀬戸内海の小さな島、牙島。朱里、衣花、源樹、新の4人は島に高校がないため、フェリーで本土に通う。未婚の母の涙、1ターンの青年の後悔、そして自らの淡い恋心…。17歳、ともに過ごす最後の季節を描く。</p> <p style="text-align: right;">○</p>	<p><b>坊っちゃん</b> 夏目漱石 著 小学館（小学館文庫） 2013年 ￥438</p> <p>曲がったことが大嫌いな坊っちゃんは、幼いころから喧嘩やいたずらを繰り返して、家族にずっととうとまれてきた。心配してくれるのは下女の清だけだ。坊っちゃんは物理学校を卒業し、四国の中学に数学教師の職を得るが…。</p> <p style="text-align: right;">○</p>